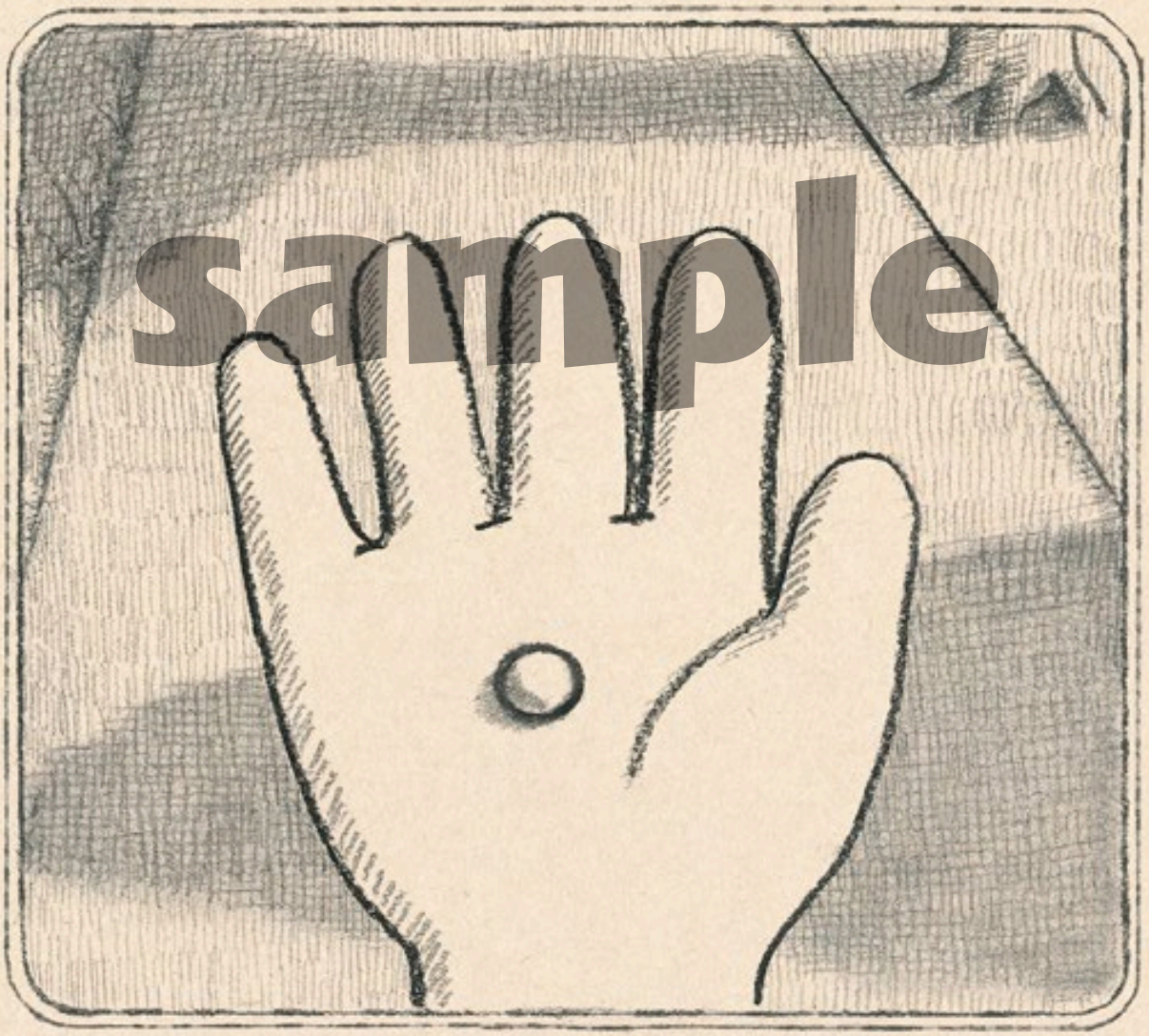
だいず



作　ひるかわ あや

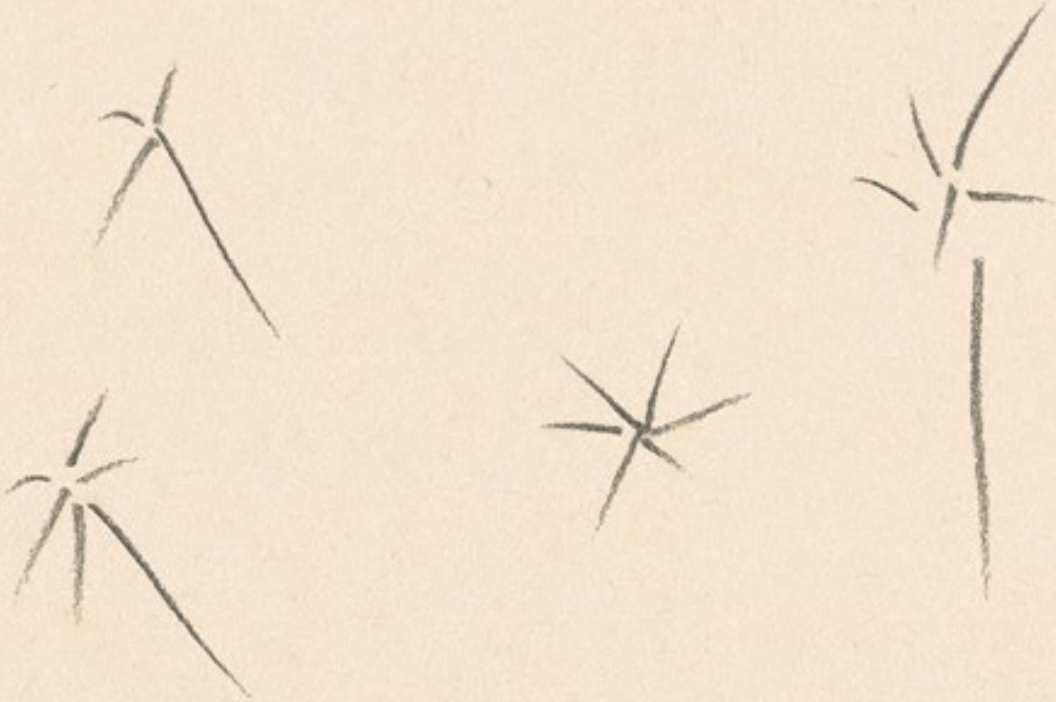
sample

ひとつのサヤの中に、だいずが三つならんでいます。

冬のかわいた空気の朝、兄弟たちがおしゃべりをしています。
「ぼくら、ずいぶんと丸くなったね」
一つ目のだいずが言いました。
「それに、やわらかい体の色、あわい黄色がみごとだね」
二つ目のだいずが言いました。
「まったく、光りかがやく宝石そのものさ」
三つ目のだいずが言いました。

起きるたびに、昨日より少し、りっぱになっている気がしました。

sample



sample

・・・パチ・・パチン・・・

「おや、遠くのほうで、何かがはじけるような音がしないかい？」
一つ目のだいずが、耳をすませました。
「なるほど、時々小さくパチッというね」
二つ目のだいずが言いました。
「ぼくは、自分が硬く小さくなるときの、あの音かと思っていたけどね」
三つ目のだいずが言いました。
「いや・・・外から聞こえるな」
「外っていうと、サヤの外かい？」

兄弟たちは、さらに耳をすませました。

sample

sample

だいずたちは、硬いサヤの中で、少しずつ大きくなります。サヤの外へ、出たことはありません。

知っていることと言えば、温かいのは、お日さま。ブーンというのは、カメムシ。風の音、雨の音、曇りの日、それに朝と夜。
サヤの中では、雨でも日照りでも、安心していられました。

「サヤの外で何か、大変なことが起こっているようだ」
「大変なことって、ぼくらが心配するようなことかい？」
「ぼくらが、危険だということ？」
「・・・ああ、ぼくは何だか不安だよ」

丸々とした、だいずの兄弟たちが身ぶるいをすると、かわいたサヤが、カラカラと鳴りました。

sample

sample

すると、その音を聞いた、だいずのお母さんが言いました。

「子どもたち、怖がらないで」
「外の世界には、おそろしいことなんて、一つもありませんよ」

たくさんのサヤをつけたお母さんが、風に体をゆらします。

一つ目のだいずが、言いました。
「見えないからって、おそれていたね」
「そうさ、ぼくらはいつでも、完ぺきだというのに」
二つ目のだいずが、言いました。
「今だって、まぶしいくらいに、かがやいてる！」
三つ目のだいずが言いました。

sample

sample

お日さまが高くのぼるころ、兄弟たちのサヤは、すっかり硬くなりました。
すると、ちぢんだサヤが、音をたてて弾けました。

「パチン！」

大きな音とともに、一つ目のだいずが弾け出て、土の上にポロンと落ちました。
ほかの兄弟は、落ちてきません。
「おやおや！ずいぶん兄弟と離れてしまったぞ」
だいずはお母さんを見あげました。しかし、自分のサヤがどこにあったのか、さっぱりわかりません。

みんな風に吹かれて、カサカサとかわいた音を立てています。
「さて、ぼくは一人で生きてかなきゃならないよ」

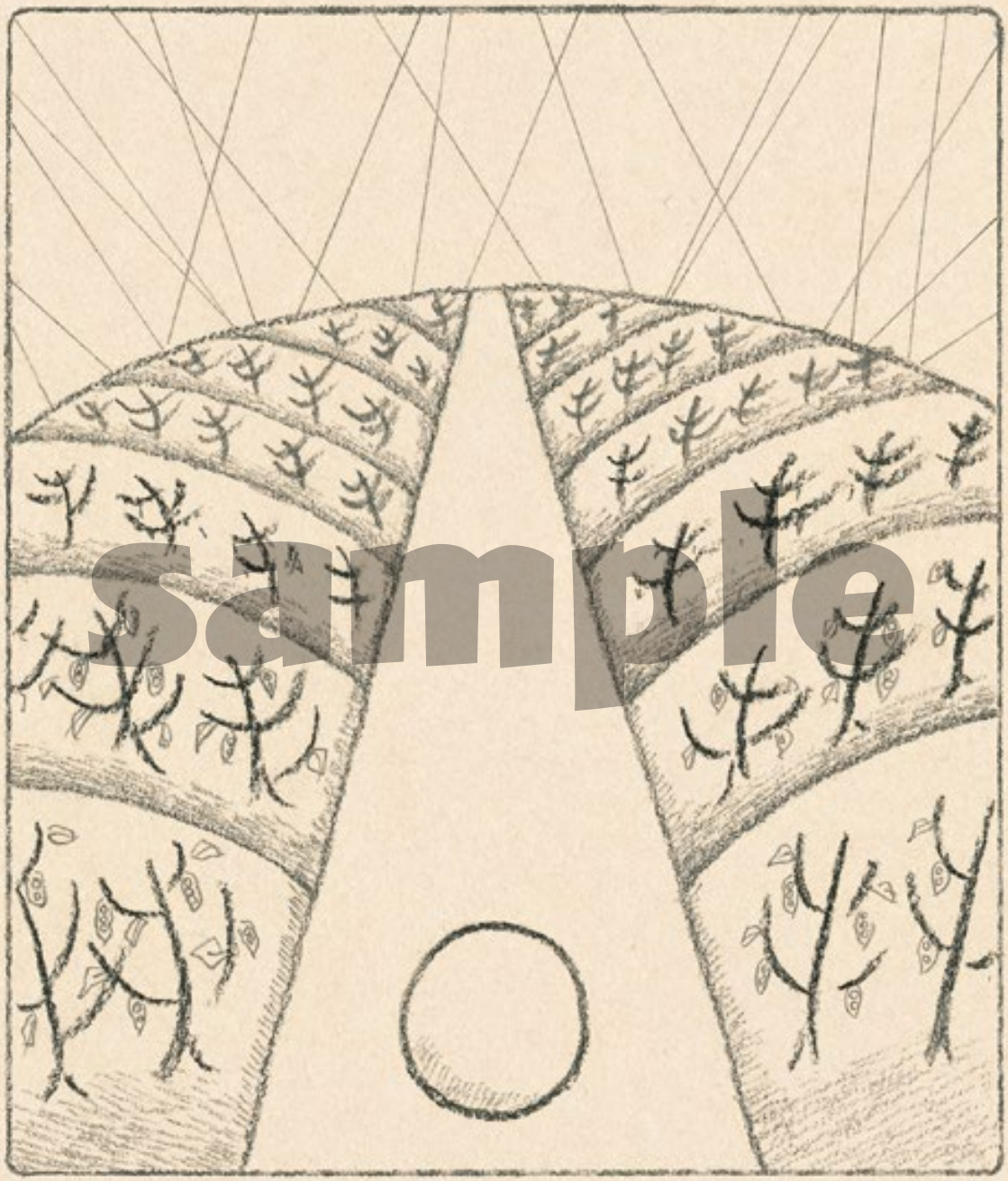
sample

sample

はじめて見るサヤの外は、たくさんの色や形に、あふれていました。

お日さまの光りで、虫や花たちが、キラキラと踊っています。見るものすべてがとても大きくて、だいずは目を丸くして眺めました。

sample



sample

そして、あることに気がつきました。
「外の世界でも、こんなに丸くて美しい、すてきな色のものは見あたらない。ぼくは、ほんとうに宝物のようだぞ」

だいず畑のあちこちから、サヤの弾ける音が、パチパチと聞こえてきます。
だいずは、たくさんの拍手で見送られているようで、ほこらしい気持ちになりました。

sample

sample

それから、毎日気の向くままに歩きました。

「ははぁ、ぼくがあの角を曲がると、次の角が決まってぼくを待っているね」
「それに、この石ころを超えると・・・やっぱり次の石ころが、ぼくを待っているんだ」

世界はとても広くて、先っぽまで来たかな？と思うと、まだずっと、先の先まで続いています。

sample

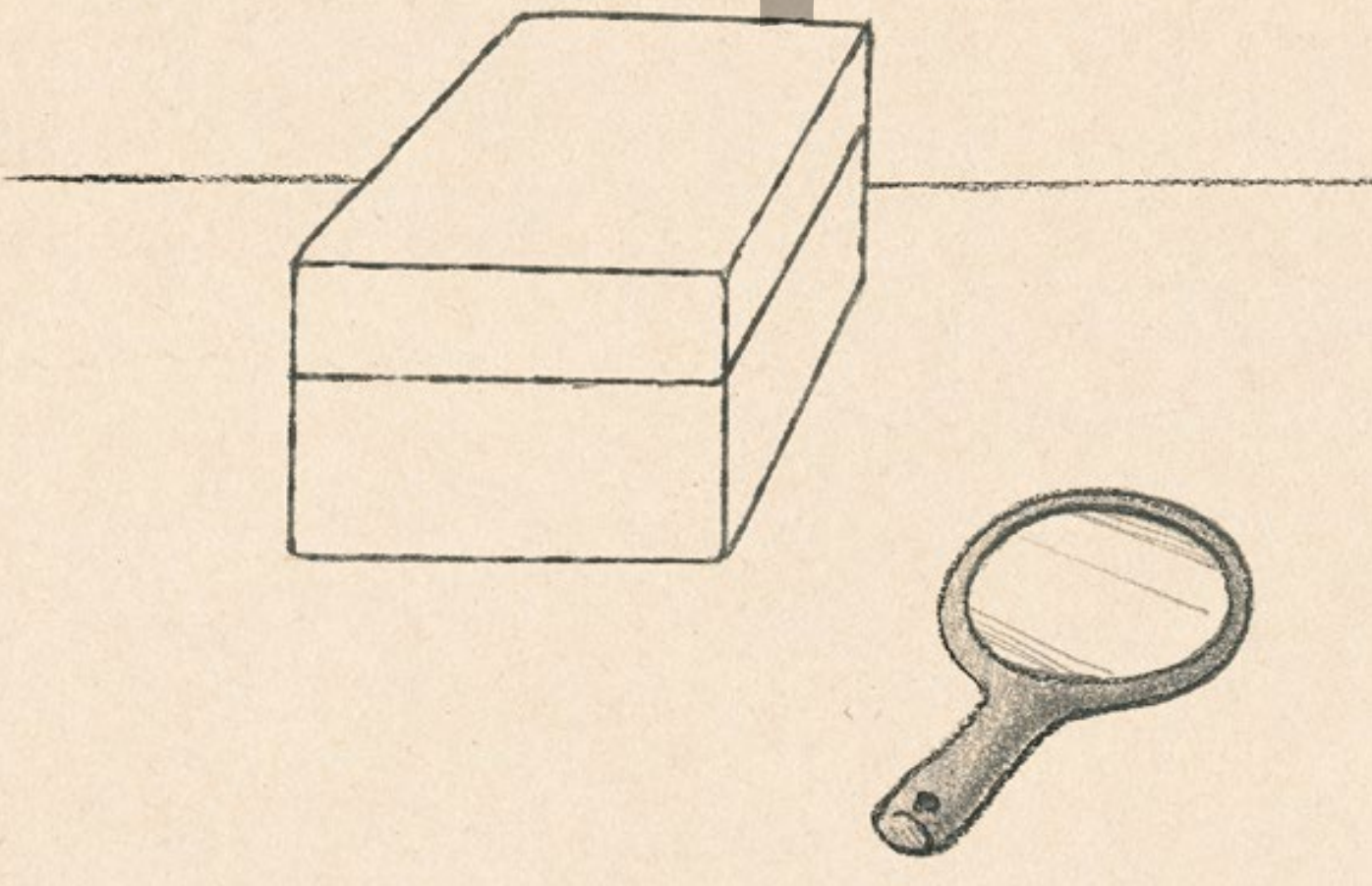
sample

車通りの多い道をさけて、公園へやってきました。
「今日は、どこでねようかな」
夕日をあびただいずの影が、長くのびています。

「わあ、いいもの見いつけた！」
一人の男の子が、立っていました。
だいずをヒョイとつまみあげると、手のひらにのせて、コロコロと転がします。
それから、急に何か思いついたように顔をあげると、走って家に帰りました。

「ただいまー」
机にあった四角い箱をあけると、だいずをポツン、と入れました。

sample



sample

箱の中には、石や小枝、木の実、ガラスのかけら、ビー玉が入っています。

「へぇ、今日のねどこはここだね」
だいずは薄暗さに目を細めながら、言いました。
「いらっしゃい。あなた、あたらしい仲間ね」
だいずより少し小さな赤い実が、話しかけてきました。
「やあ、赤い色がとてもきれいだね。・・・ところで、ぼくは何の仲間になったのかなぁ？」
すると赤い実は、ほんのり色を明るくして、答えました。
「この箱はね、彼の宝物入れよ。彼のお気に入りだけが、ここへ入れてもらえるの」
「彼」というのは、だいずをひろった子どものことです。
それを聞いただいずは、飛びあがりそうになって、言いました。

「どうしてぼくが、宝物だってわかったんだろう！」

sample

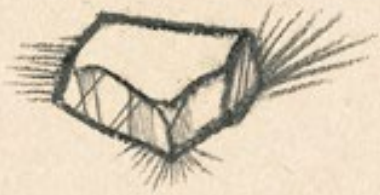
sample

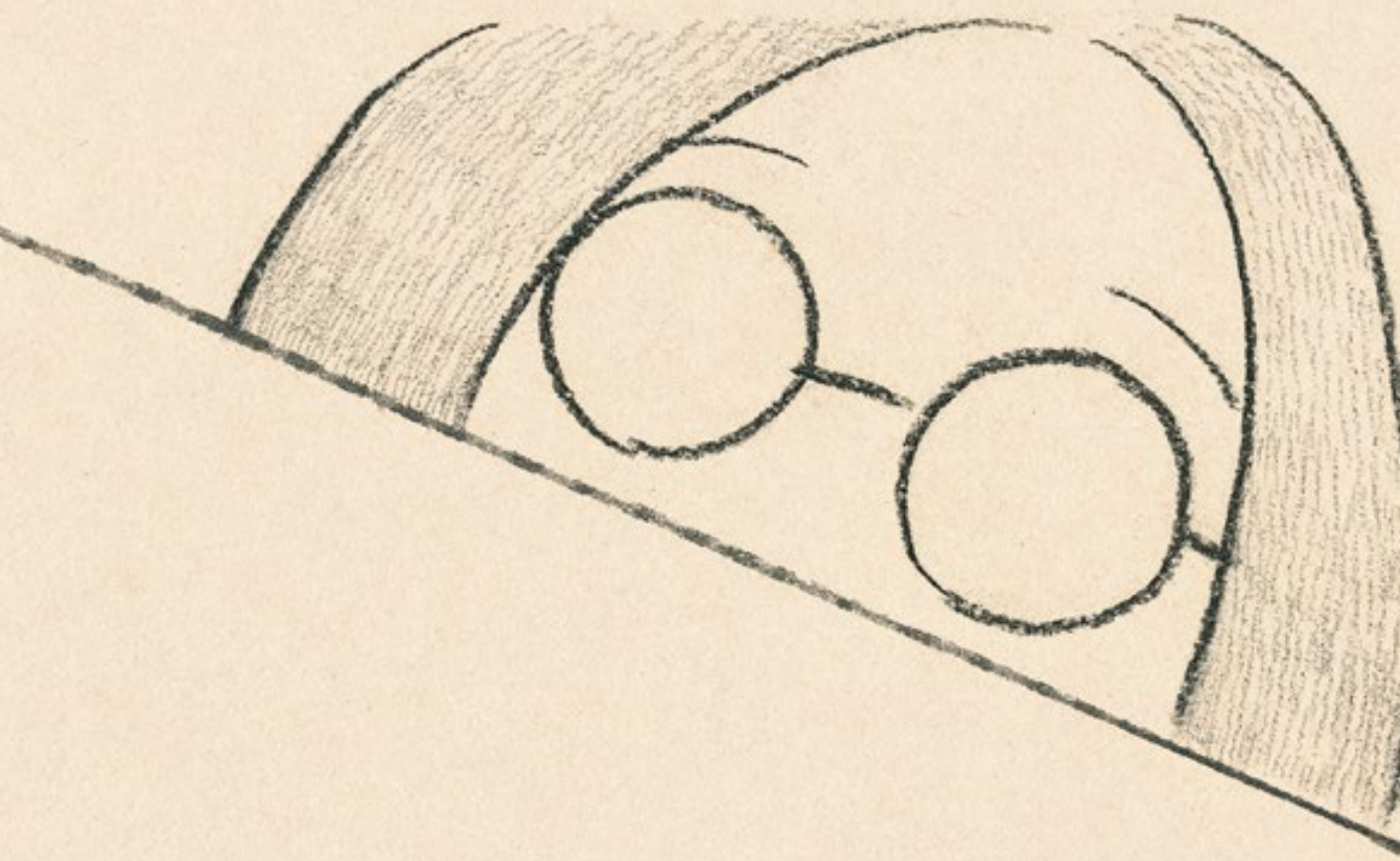
すると、誰かが答えました。
「子どもってやつは、とくべつなんだ」
「何がすてきなものか、よく見えるし、知っているのさ」

そう言ったのは、淡い水色の、ガラスのかけらでした。ガラスの中には小さな気泡が見えます。
「はじめ、おれは駐車場にまかれた、ジャリの中の一つだった」
「ところが彼は、おれを見つけ出したんだ。とてもたくさんの、似たようなものの中からね」

だいずは、大きくうなずきました。
夕日に照らされて、オレンジ色にかがやくだいずを見つけたとき、彼はドキドキしたにちがいない、と思いました。

sample





sample

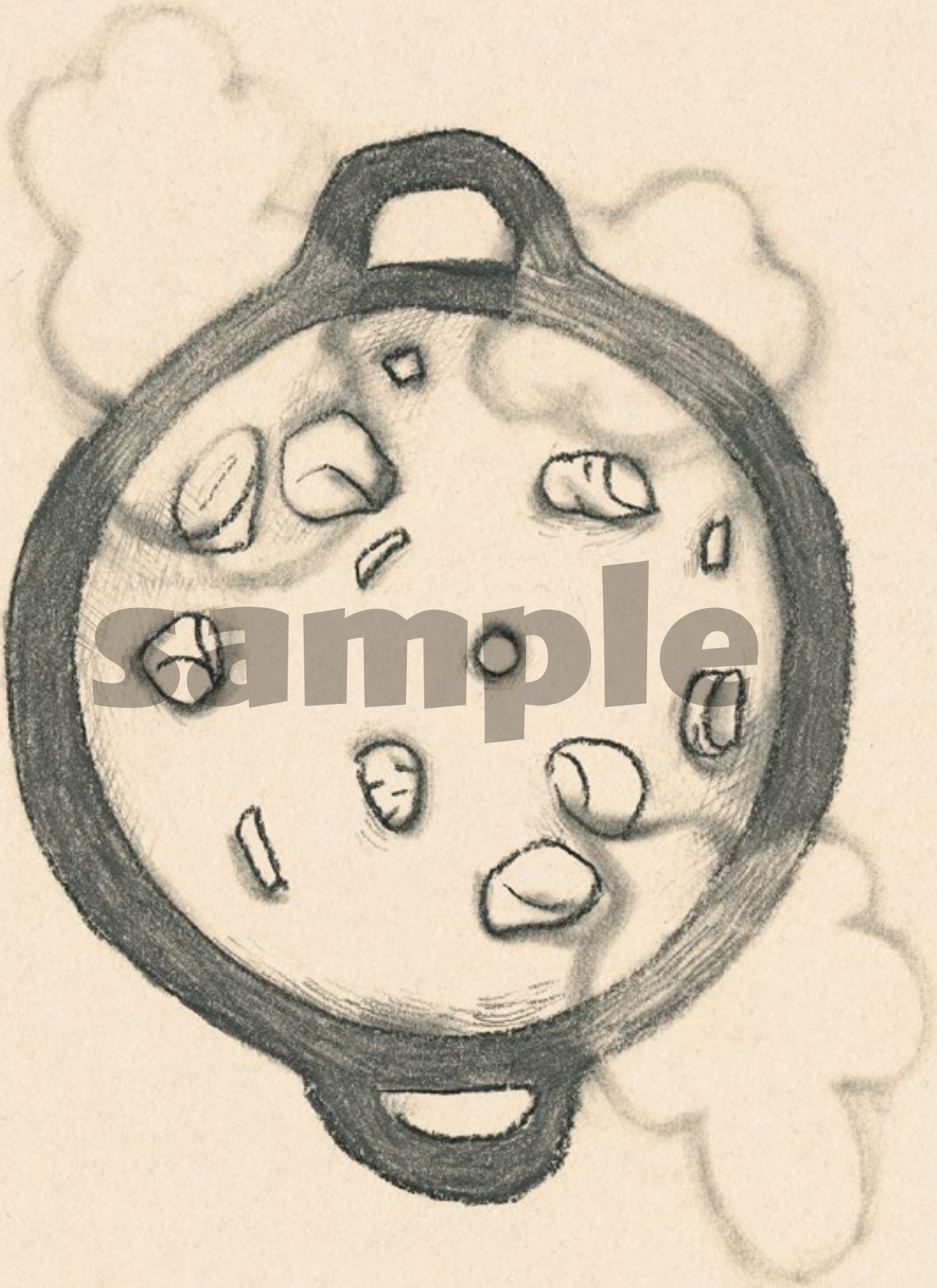
箱が、カタンとゆれました。

子どもと、その母親がのぞいています。
「ほら、ビー玉よりも小さくて、どの石よりも、丸いでしょう？」
そう言って、だいずを指さしました。
すると、母親が言いました。
「あら、だいずじゃない」
「これはね、食べられるんだよ・・・そうだ、明日のスープに入れてみようか？」
「すごい、すごい！ぼくが食べるんだからね！」

sample

母親が、だいずをつまみあげました。
どうやら、みんなとお別れのようです。
「宝物の仲間たち、さようなら！」

「でも、食べるって何だろう？」



sample

台所では、ジャガイモやにんじんが、お湯にひたっています。
母親は、なべの中にポチャンとだいずを入れました。

「ふう、温かくて気持ちがいいね。食べるって、お風呂に入ることかな」
だいずは、心も体も、フワフワとしてきました。
「ふふふ・・・違う違う。食べるって、人間になることだよ」
さわやかな香りがします。にんじんが、ゴロリと横になって言いました。
「人間になる？」
「うん、人間の体になるよ」
言われてみると、あれほど硬かっただいずの体が、少しずつ、柔らかくなっています。人間になる準備でしょうか。
「彼は、ぼくを食べると言ったよ。ぼくは、彼になるんだね？」
「うん・・・そのとおりだよ」
にんじんが、眠たそうに答えました。

だいずは、考えただけで、ワクワクしてきました。
彼の目で、世界を見られるのです。彼の目で、木の実や、ガラスの宝物を見つけるのです。
「ああ、きっと毎日すてきなことでいっぱいだよ！とても楽しみだなぁ！」

だいずは温かいお湯の中で、ぐっすりと眠りました。

sample

sample

次の日、スープには柔らかくふくらんだ、だいずがありました。
色はそのままですが、長い丸の形になっています。
「いただきまーす」
子どもは、スープの中からだいずをすくうと、不思議そうにながめます。
それから、パクリと口に入れました。

だいずは、子どもになりました。

sample

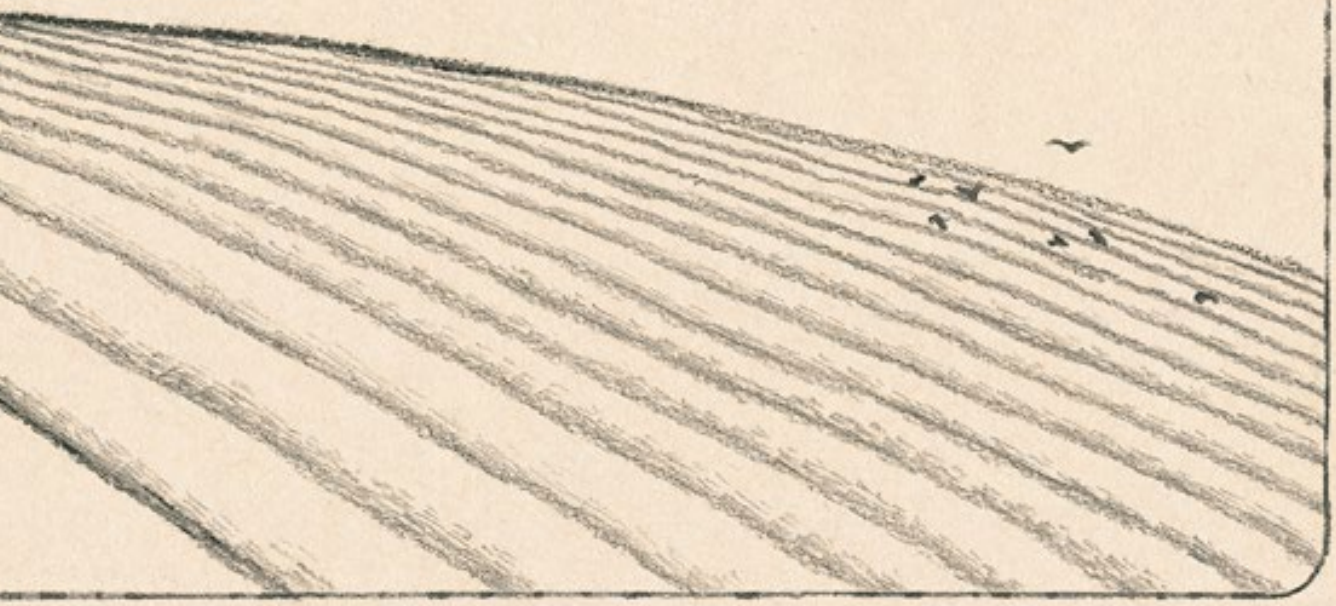
「行ってきまーす」
子どもは今日も、外へあそびに出かけます。
「おっと、地面がすごく遠いね」
だいずは、おどろきました。
子どもが立ちあがると、地面がずっとずっと、下のほうに見えるのです。
目の前には、空が広がっていました。
「わあ、お日さまがとても近いよ。それに・・・なんてよく見えるんだろう！」
そこには、石ころや、草のような、目の前をさえぎるものがありません。

sample

子どもは、手足をふって、グングンと進みます。
だいずが一日かけて歩くところを、あっという間に、走りぬけてしまいました。
「よし、この道を行こう！」
世界の先っぽが、すぐにでも見られそうです。

「ふふふ・・・」
かすかに、にんじんの声が聞こえました。

sample



いしだえほん No.0134

だいず

2019年5月24日　初版発行

作　ひるかわ　あや

印刷・製本・発行　石田製本株式会社
〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31
TEL 011-676-4520
http://i-bb.co.jp/

©2019 Aya Hirukawa / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

sample

ISBN978-4-909939-33-3

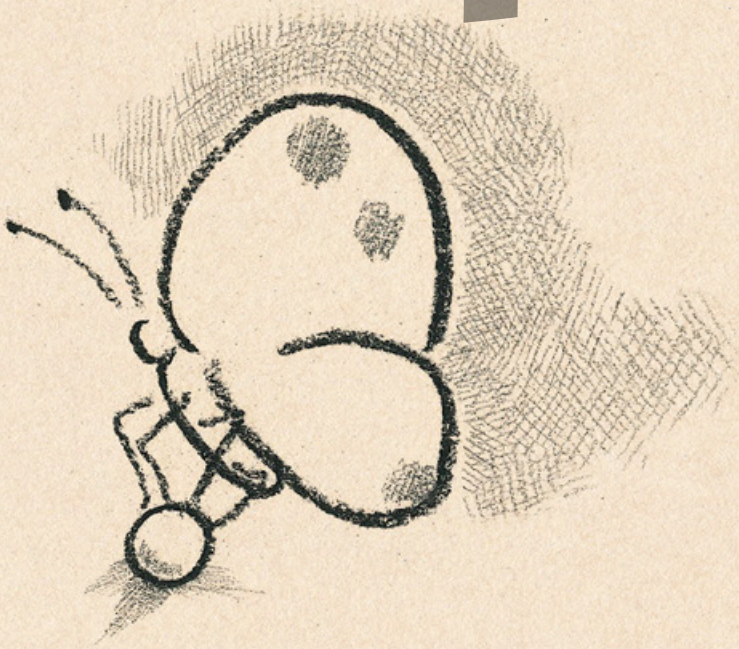
石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
http://p-books.jp/ehons/

sample

ISBN978-4-909939-33-3
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税

9784909939333

19287710120000

sample